

船舶事故等調査報告書

平成27年11月26日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2015横第87号
事故等種類	衝突（防波堤）
発生日時	平成27年6月26日 03時10分ごろ
発生場所	静岡県 <sup>ふくく</sup> 福田漁港 福田港西防波堤灯台から真方位029°490m付近 （概位 北緯34°39.84′ 東経137°54.60′）
事故等調査の経過	平成27年6月29日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	漁船 <sup>ひろき</sup> 洋己丸、7.3トン S02-5157（漁船登録番号）、個人所有 第242-26768号（船舶検査済票の番号）
乗組員等に関する情報	船長、一級小型船舶操縦士
死傷者等	軽傷 1人（船長）
損傷	本船 船首外板に割損、機関室に濡損等 消波ブロック なし
事故等の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、平成27年6月25日03時00分ごろ東京都大島町<sup>はぶ</sup>波浮港を出港してかつお引縄漁の操業を行い、19時00分ごろ、操業を終えて静岡県<sup>じとうがた</sup>牧之原市地頭方漁港に向けて帰途についた。</p> <p>船長は、操縦席に腰を掛けた姿勢で見張りを行い、自動操舵装置を使用して約12ノットの対地速力で航行していた。</p> <p>本船は、伊豆半島南方沖において、他船を避けようとして西北西進した後、船長が居眠りに陥り、同じ針路で航行を続け、26日03時10分ごろ、静岡県福田漁港の東内防波堤の消波ブロックに衝突した。</p> <p>船長は、衝突の衝撃で目を覚まし、機関を後進にかけたところ、船首の損傷箇所より浸水して本船が傾き始めたので、転覆すると思い、機関を前進にかけ、本船を福田漁港東方の海岸に任意乗揚げさせた。</p> <p>船長は、海岸に自力で上陸後、右脇腹に痛みを感じ、付近住民より通報を受けて来援した海上保安庁の職員が要請した救急車で病院へ搬送され、左足首及び右脇腹の打撲と診断された。</p> <p>本船は、本事故当日、船長が手配した業者により引き出され、福田漁港へ運ばれて上架された。</p>
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 南東、風力 4 海象：波向 南、波高 約2m

<p>その他の事項</p>	<p>船長は、24日夕刻に地頭方漁港を出港し、同日波浮港に入港して約7時間の睡眠をとったが、帰航中、疲労を覚えていた。</p>
<p><b>分析</b></p> <p>乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象等の関与 判明した事項の解析</p>	<p>あり なし なし</p> <p>本船は、伊豆半島南方沖で他船を避けようとして福田漁港に向かう態勢で西北西進した後、船長が居眠りに陥ったことから、福田漁港に向かって航行し、福田漁港東内防波堤の消波ブロックに衝突したものと考えられる。</p> <p>船長は、本事故前日に出港して操業を行ったのち、疲労を覚えた状態で椅子に腰を掛けた姿勢により見張りを行っていたことから、覚醒水準が低下して居眠りに陥ったものと考えられる。</p>
<p><b>原因</b></p>	<p>本事故は、本船が、伊豆半島南方沖で他船を避けようとして福田漁港に向かう態勢で西北西進した後、船長が居眠りに陥ったため、福田漁港に向かって航行し、福田漁港東内防波堤の消波ブロックに衝突したことにより発生したものと考えられる。</p>
<p><b>参考</b></p>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単独で乗船して操船を行う場合、疲労を覚えた状態で航行を続けず、最寄りの港に寄港するなどして休息すること。</li> <li>・ 操船中に眠気を感じたときは、立って操船するなどして眠気を払拭すること。</li> </ul>